

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	中谷 亮介
指導教員氏名 岡田 幸彦 (副指導教員氏名 有馬 澄佳)				
論文題目 地方自治を支援する地域活性化総合指標と地域活性化データベースの開発およびその活用				
論文概要 <p>近年、我が国では地方の人口減少と経済衰退、都市と地域の格差が進行するなかで地域社会の問題意識が高まってきた。しかしながら、地域を評価する基盤が不足するなど、様々な問題を抱えている。本研究では、我が国の課題として、「経済的要素と非経済的要素を考慮した定量的分析の不足」、「地域の活性状態を統一的な客観指標を用いた比較分析の不足」、「地域間比較を容易にする情報基盤の欠如」、「施策などの自治体評価と自治体運営の連携不足」をあげた。「地域間比較を容易にする情報基盤の欠如」に対しては、地域情報を集約するデータベースのプロトタイプを開発し、1都2県(東京都・滋賀県・茨城県)の総合計画の情報(政策・施策情報)、SSDS データをカテゴリに分類し集約した。加えて、実際に格納したデータを用いて、レーダーチャートやポートフォリオ分析を利用した可視化の事例を示した。レーダーチャートにおける可視化では、施策における市区町村間の相違や全国平均と比較した際の市区町村の現状を表した。ポートフォリオ分析では市区町村が優先的に取り組むべき課題の可視化を行った。</p> <p>また、「経済的要素と非経済的要素を考慮した定量的分析の不足」、「地域の活性状態を統一的な客観指標を用いた比較分析の不足」および「データの比較を実現する基盤の欠如」を解決する一方策として「地域を評価する指標の開発」を挙げ、施策の成果指標における目標値、現状値、実績値およびそれらの対象年度を用いて指標を設計した。従来の行政評価においては、目標を達成した程度を中心に自己評価が行われているが、本研究では、「目標向上度」と「目標達成度」の 2 つの観点から、行政施策を通じた地域の活性化状況を計った。</p> <p>加えて、「目標向上度」と「目標達成度」を用いてポートフォリオ分析を行い目標値と実績値を用いて具体的に施策を通じた地域活性化の志向と現状の位置を可視化することができた。「施策などの自治体評価(データ)と自治体(地域実体)運営の連携不足」においては DMAIC および PDCA を組み合わせたプロセスマッピング作成し、本研究で行った指標設計や共通指標での比較、ポートフォリオ分析の活用方法について示した。</p>				
審査日	平成 27 年 01 月 29 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(商学)	岡田 幸彦	
副査	筑波大学 教授	工学博士	谷口 守	
副査	筑波大学 講師	博士(コンピュータ理工学)	有馬 澄佳	